



元伊藤忠記念財団の矢部でございます。伊藤忠記念財団は、昭和49年に設立された財団として、開設当初から「読書を通して、子供たちに成長してもらいたい。」という願いを込めて、家庭文庫ですとか、地域文庫、子どもたちをボランティアで支えている方々への支援を行ってまいりました。長年その事業を行ってきまして、途中で調べたところ、「紙の本を渡しただけでは、なかなか読むことが難しい。」というお子さんも大勢いることがわかりました。その例として、ここに書いてございます、視覚障害ってのは、紙の本だと難しいというのは、よくお分かりだと思いますけど、他の障害でもなかなか紙の本を渡されただけでは読むことが難しい、というお子さんが大勢いるということです。



私たちが作ってるのは、先ほどから石原さんがご紹介してくださってます、マルチメディアデージー、そのマルチメディアデージーの様々な機能が先程あった、色々な読みの困難を解消することができるということはございます。ただ市販されている本を、マルチメディアデージーにしたものが、外国籍の子さんたちには利用していただくことができません。これ著作権法の現状では、外国籍というのは障害ではないので使ってはいけないということになっ

てます。ただ大勢外国から今日本に来てますね、あの、コロナの時で止まってますけど、それまでは年々外国籍の人たちが増えてきてました。子供たちの様子を見てますと、やはり、なかなか日本語を覚えるのが大変、話す方はすぐ覚えることができるんですね。我々も、もと児童館にいましたので、その時見てますと、すぐ言葉はペラペラになります。まず悪口から覚える。コミュニケーションを取れるようになるんですけど、読み書きは、これはかなり苦勞しているということがよくわかりました。市販されてる本をマルチメディアデージーにしたものは外国籍のお子さんには使ってもらえない。ただ彼らが日本で生きていく上で、やはり日本語に触れ合う、日本の文化を知る、っていうことはとても大切なことなので、市販されてる本以外で、マルチメディアデージーを作って見てもらうという企画を始めました。

わいわい文庫 Ver.Blue 作品紹介①

日本昔話の旅

- ・ 日本全国に伝わる様々な昔話を知り、各地の表現方法を味わう
- ・ 地元で伝わる話や表現方法を知り、帰属意識、郷土愛を育む
- ・ 一般の方も楽しめる作品を提供する
- ・ 都道府県立図書館と共に、障害者の読書環境整備を進める



1 鳥取県
「因幡の白うさぎ」



2 佐賀県
「おとわ観音由来(大蔵の火)」



59 沖縄県豊見城市
「豊見城の王様わんおうそ
ハーリー由来物語」

その一つとして日本昔話の旅というのを始めました。わいわい文庫っていうのは、伊藤忠記念財団が作っております、マルチメディアデージーの愛称です。その中で、バージョンブルーっていうのは、ブルーの CD に収納した作品で、誰でも利用できる、市販されている本に関しましては、白いレーベルで作ってますけど、ブルーのレーベルは誰でも利用できるということで配布してます。青い色っていうのは、色覚に困難さがあっても比較的わかりやすい誰にもわかりやすい色ということで選んでいます。その中で書いてあります通り、日本には様々な昔話が伝わっておりますので、そのいろんな話を知ってもらいたい、あとはそれぞれの方言がありますけど、表現方法、それを知って日本のそれぞれに住む子供達の帰属意識とか郷土愛を育むことを目的としたい。あと一番最初に話したように一般の方も楽しめるようにしていきたい。ということが主な目的です。これまでも作品を配って全国の特別支援学校や人口 20 万人以上の都市の図書館に寄贈はしてはしておりますが、なかなか進まない。周知が進まないという周知と共に利用が進まないというのが現状でしたので、これはもう図書館の人と一緒に汗を流して作品を作ることが、広がりにつながるのではないかとということで、都道府県立図書館にお話を持って行って、都道府県立図書

館が地域の昔話を一話選んでいただいて絵と音を提供してもらって財団で編集して全国に配るという授業を開始しました。

その中の一話を少しご覧いただきたいのですが、千葉県立中央図書館と連携して作りました「雨を降らせた竜」というお話です。



これは千葉県立中央図書館の方と、合同で作った作品です。今標準語版をご覧いただきましたが、方言版も別に作っております。もう本当にちょっとで申し訳ないんですが、6,7 分かかるので、この辺にします。日照りが続いて困ったときに、竜が雨を降らしてくれたというお話です。

おかげさまで 6 年かかって全 47 都道府県の作品が完成しました。今も市町村立図書館に呼び掛けて毎年増やしているというところです。



バージョンブルーにはいろいろな作品を用意いたしました。昔ばなしもお陰様で全国の図書館からご理解をいただいて全都道府県の作品が今揃っている状況です。その他にはここでお見せしてるのが百人

一首を作品化したものですけど、これは都立の肢体不自由の学校に通う中学1年生の女の子が授業で百人一首を学んで、ものすごく興味の持った、もっと勉強したい、だけど手が不自由なので本をめくることができないページをめくることができない、また札を持つこともできないということで私の所に相談を頂きました。

これも著作権ありますので、任天堂さんが協力して下さったんですけど、お話を京都までしに行きまして、ご協力いただけないかと、お願いしたところ、印刷用の版だけを持ってんだけど、データはないということだったんですけど、わざわざデータを起こして下さって、こちらも協力してくれたという作品です。左に書いてある歌の情景（都立高校）と書いてありますけど歌の情景を絵にして表現してもらいたいということで都立高校にお話をしたところ、10校くらいが協力して下さりまして一枚、一枚に絵をつけてくれた。大勢の方の力を集めて作った作品です。



他にも色々な団体に協力を呼びかけて作品を提供しています。JAXA、衆議院、東京動物園協会、これ左の下は金閣寺ですね、あと東京モノレール、パラリンピック協会などなど他にもたくさんあるんですけど、できるだけ多くの方になかなか紙の本では読めない人たちがいる、外国籍の子達はこれ使えない、ということをお話しに行きまして、皆さんから快く協力してもらいまして様々なコンテンツを出していただきました。色々な方を巻き込んでいくってということも、財団の仕事として非常に大切なのではないかと考えておりました。



最後になりますが、今特別支援学校等に贈っている作品に関しましては、そのお子さんが在籍中は学校の図書館で借りて、いつでも楽しく読むことができる、という状況ですが、卒業した後、彼らが借りることができなくなってしまうんですね、そこをなんとか補ってもらうのが、地域の図書館だと考えています。地域の図書館へ働きかけをずっと続けてまいりましたが、これからも非常に大切ではないかと思います。私自身3月に財団を退職いたしまして、今は図書館員になるための修行しております。図書館員になって、障害者ですとか外国籍のお子さん達そういう人たちへの読書環境を整えることをこれから努めていきたいと考えています。